

ロコモティブシンドロームの有無による作業遂行の状況の変化の違い

- 6か月の追跡調査 -

栗田洋平^{*,1)} 泉良太¹⁾ 鈴木達也¹⁾ 佐野哲也¹⁾ 青柳翔太²⁾ 佐貝拓郎³⁾ 四條敦史⁴⁾

¹⁾ 聖隷クリストファー大学、²⁾ 静岡医療科学専門大学校、³⁾ J A 静岡厚生連遠州病院、⁴⁾ 島田市立総合医療センター

はじめに

- ロコモティブシンドローム（ロコモ）：運動器疾患による移動機能が低下した状態
- 作業療法士：作業（活動・参加，個人因子）の専門家
 - 作業療法士がロコモ支援に関わることは，ロコモ陽性者の活動・参加を改善する可能性がある

目的

- ロコモ・非ロコモの作業遂行（活動・参加，個人因子）が時間経過によりどのように変化をするのかを明らかにすることで，作業療法士がロコモ支援に携わる意義を示すこと

方法

- A市在住の65歳以上の者を対象に計2回（初回-6か月後）の調査
- 調査項目：**
 - 対象者の基本情報
 - ロコモの評価
 - 作業遂行の評価（SOPI）
 - 心身機能の評価（握力,GDS）
 - 活動・参加の評価（FAI,LSA）
- 統計学的分析：**
 - 対象者をロコモ・非ロコモに群分けし，群間比較，各群での前後比較
 - χ^2 乗検定，マンホイットニーのU検定，ウィルコクソンの符号順位和検定を使用
 - 統計学的有意水準を両側検定で5%.

結果

- 群間比較**（173名,p<0.05のみ抽出）

		ロコモ群 (143名)	非ロコモ群 (30名)
年齢		79.5	73.1
治療中の病気	有り	103	15
	無し	40	15
就労	有り	9	7
	無し	134	23
1か月のロコトレ時間		173.7	329.3

	ロコモ群(143名)	非ロコモ群(30名)
FAI	32.5	36.4
LSA	92.6	104.6
握力	23.0	25.2
SOPI	37.7	40.4

- 前後比較**（23名,脱落16名,p<0.05のみ抽出）

	ロコモ群初回	ロコモ群6か月後
握力	21.7	22.7

* ロコモ群20名，非ロコモ群3名

* 134名は研究期間に6カ月経過せず未実施

考察

- 群間比較** → ロコモ群に比べロコモ群は作業遂行で低い値を示した。
 - ロコモ陽性者は，個人的に大切な活動への参加が制限されている可能性がある。
- 前後比較** → ロコモ群・非ロコモ群ともに作業遂行に差は認められなかった。
 - 本研究の追跡調査の対象者は23名とごく少数，特に非ロコモ群は3名。
- 今後の展望** → 分析に必要な症例数を確保し，ロコモと作業遂行についての知見を深める